

2021年3月 イーアイデム会員対象アンケート結果

TOPICS

4人に1人が、希望の条件さえ合えば転居を伴う就職・転職も応募すると回答

株式会社アイデム
東日本事業本部 データリサーチチーム

調査名

- ▶【イーアイデム会員限定】お仕事探しに関するアンケート

調査目的

- ▶現在の求職者の状況を把握し、今後のサービス向上・商品開発につなげる

調査対象

- ▶総合求人サイト「イーアイデム」の会員で、2021/03/01～2021/03/31の期間にイーアイデムから何らかの求人に応募した人

調査期間

- ▶2021/03/02～2021/04/05(35日間)

調査方法

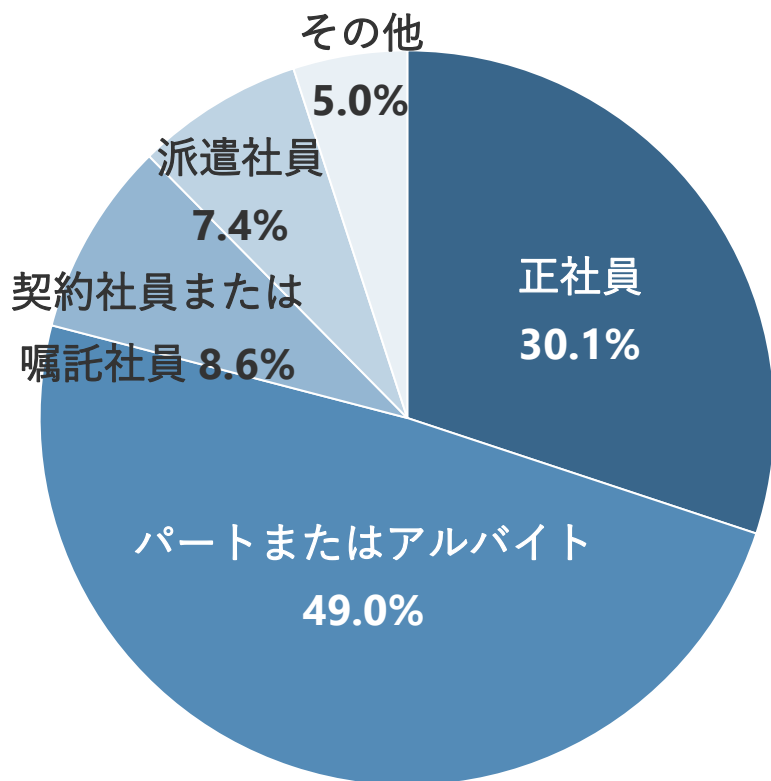
- ▶インターネットリサーチ
(株式会社マクロミル「クエスタント」を使用)

有効回答数

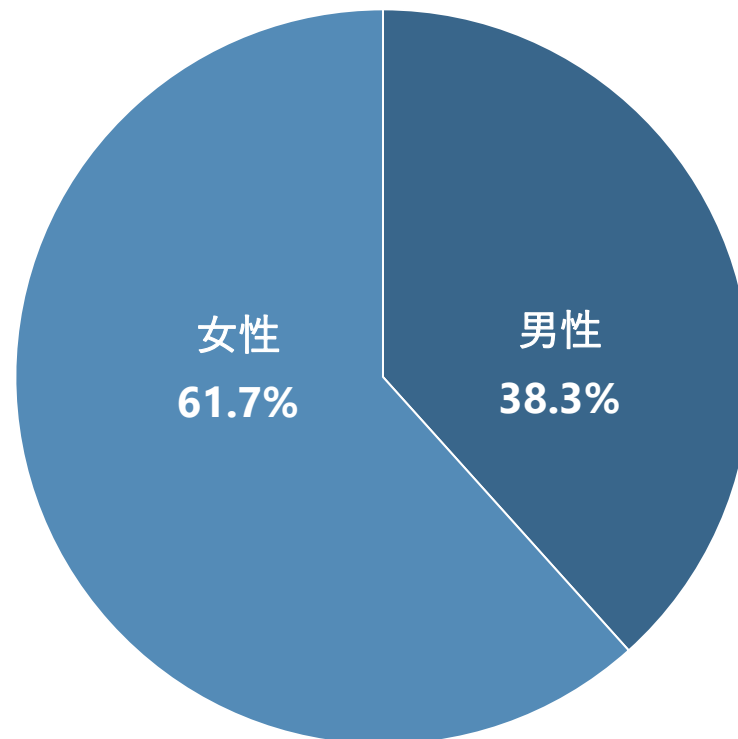
- ▶339件

※調査結果は四捨五入のために合計が100%にならない場合があります

希望する雇用形態



性別



イーアイデムから求人に応募した人に、今回仕事探しをしている理由に「新型コロナウイルス感染症の影響」は関連しているかきいた。

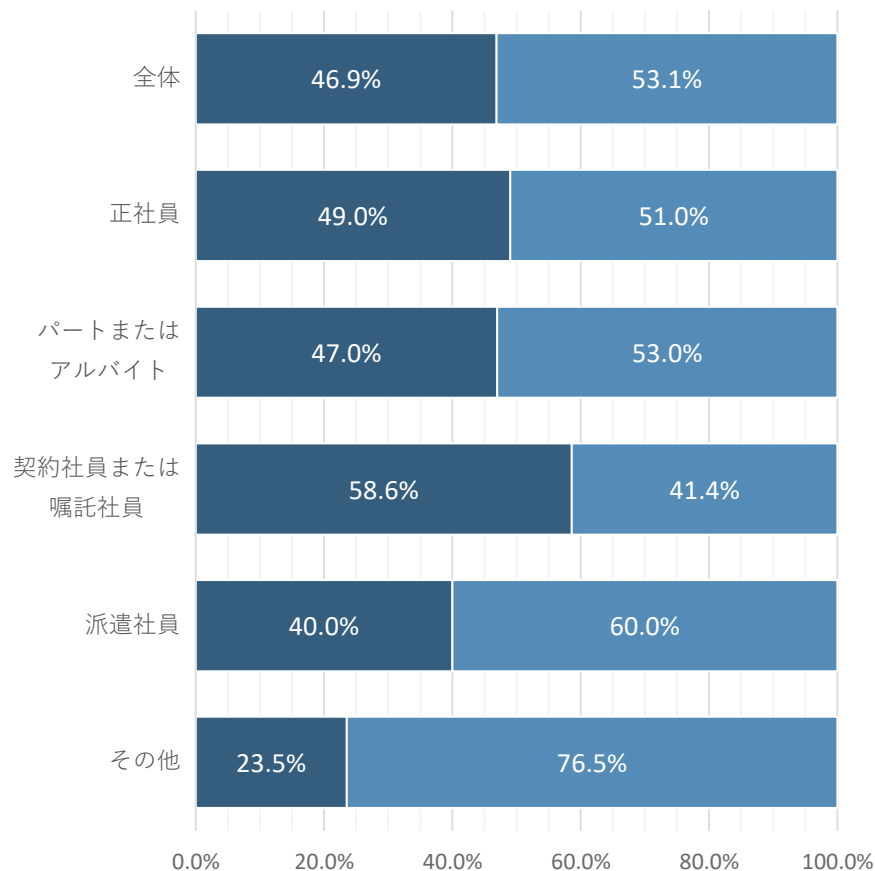
全体で46.9%が「はい」と回答し、約5割の回答者が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて仕事探しをしていたことがわかった。2020年4月調査時と比較すると、61.8%から14.9pt減少した。

希望雇用形態別に影響の有無をみると、「正社員」と「パートまたはアルバイト」の間には2月調査結果で約10ptの差が出ていたが、当調査では2ptまで縮まっている（2月結果 正社員：55.1%、パートまたはアルバイト：43.1%）。

「派遣社員」希望の人は6割が「いいえ」と回答し、感染症の影響を受けて活動をしている人が全体より少なかった。

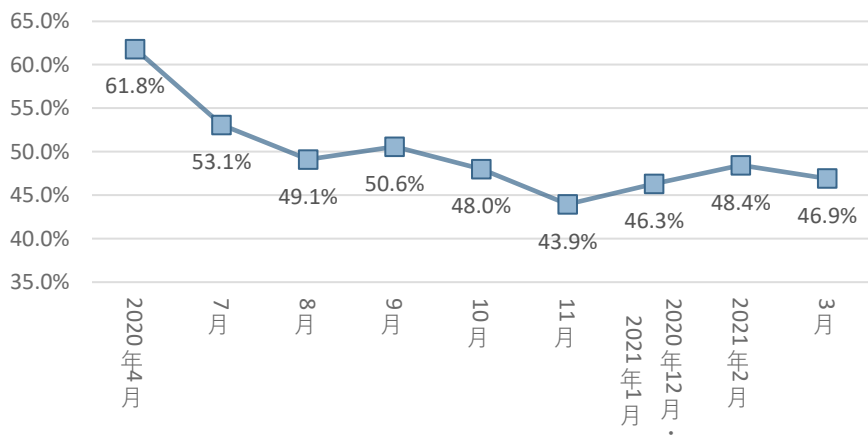
今回仕事探しをしている理由には、新型コロナウイルス感染症の影響は関連していますか。

■ はい ■ いいえ



参考

新型コロナウイルス感染症の影響
「はい」と回答した割合

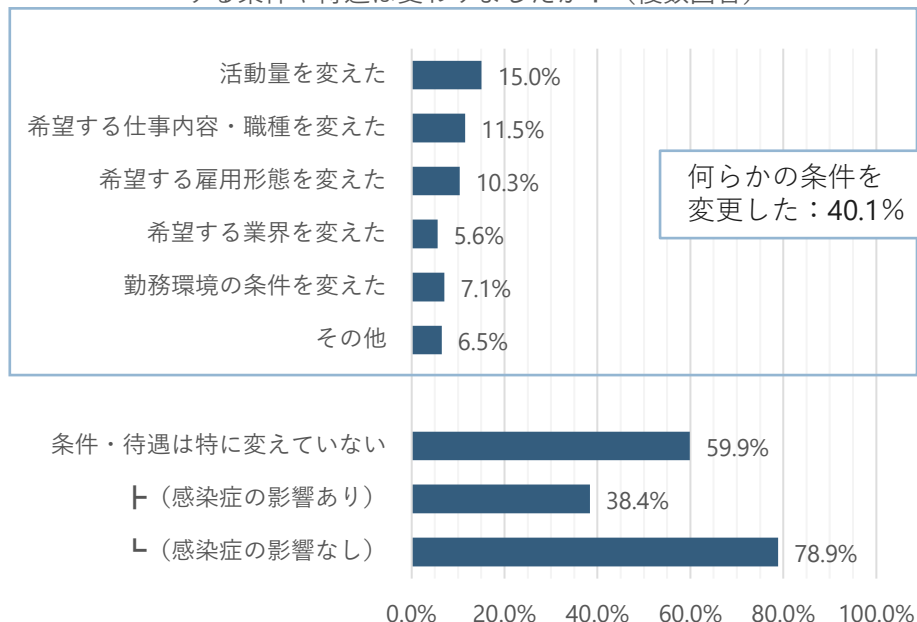


イーアイデムから求人に応募した人に、新型コロナウイルス感染症拡大の前後で仕事を選ぶ際の条件等は変わったかきいた。全体では「何らかの条件を変更した」40.1%、「条件・待遇は特に変えていない」59.9%となり、コロナ禍においても仕事探しの軸を変えない人が6割となった。

「何らかの条件を変更した」人の状況を見ると、最も多かったのは「活動量を変えた」で15.0%、次いで「希望する仕事内容・職種を変えた」が11.5%となった。正社員希望の回答の中には、その理由として「解雇されにくい」と考えがあっての選択だとした意見もいくつか見られた。

「条件・待遇は特に変えていない」について、今回仕事探しをしている理由に新型コロナウイルス感染症の影響がある人とない人を比較した（P4参照）。「感染症影響あり（『はい』と回答/以下同）」の人は、「条件・待遇は特に変えていない」割合が38.4%で、「感染症影響なし（『いいえ』と回答/以下同）」（78.9%）より40.5pt低くなっており、調査開始以来最も差が出た。

新型コロナウイルスの感染拡大により、仕事探しの際に注目する条件や待遇は変わりましたか？（複数回答）



見直した条件
希望雇用形態

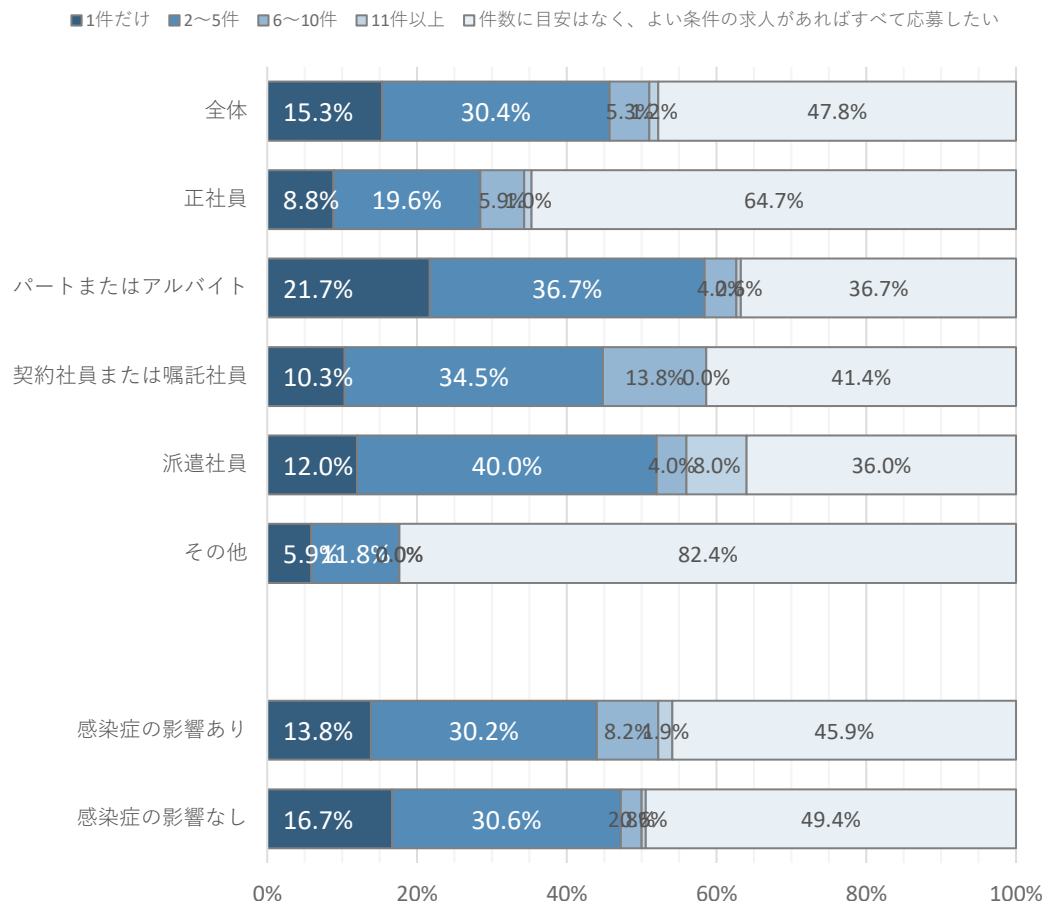
見直した条件 希望雇用形態	性別	年齢層	自由意見
正社員	女性	20代	ホテル業界希望でしたが、求人が少ないため、勉強しながら正社員の仕事を探しています
パートまたはアルバイト	女性	20代	育児をしており、保育園もまだ見つからないため、在宅ワークでも可能な仕事を探しています
正社員	男性	40代	非正規雇用では、いくら頑張っても解雇されるから
正社員	女性	50代	扶養から正社員に変更または、扶養から抜けた働き方をしたい
正社員	男性	50代	正社員だけでなく派遣社員など、雇用形態にこだわり過ぎずに探している
パートまたはアルバイト	男性	60代	正社員雇用はあきらめて、パート社員雇用で応募している

イーアイデムから求人に応募した人に、今回の求職活動期間の中で、求人に応募する件数の目安があるかどうかきいた。全体では、「よい条件の求人があればすべて応募したい」が最も多く47.8%、次いで「2～5件」が30.4%、「1件だけ」が15.3%、「6～10件」が5.3%、「11件以上」が1.2%となった。「1件だけ」以外を選んだ割合は約8割となり、多くの人が複数応募を前提に活動している。

希望雇用形態別にみると、「正社員」では、「件数に目安はなく、よい条件の求人があればすべて応募したい」の割合が64.7%と、半数を超える結果となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルス感染症の影響の有無（P4参照）との関連をみると、「感染症の影響あり」と回答した人は「感染症の影響なし」と回答した人よりも2件以上の応募を検討する割合が多かった。「感染症の影響なし」と回答した人の方が、「1件だけ」を選択した割合が多かった。

今回の求職活動期間の中で、
およそ何件ほど応募しようと思いますか。

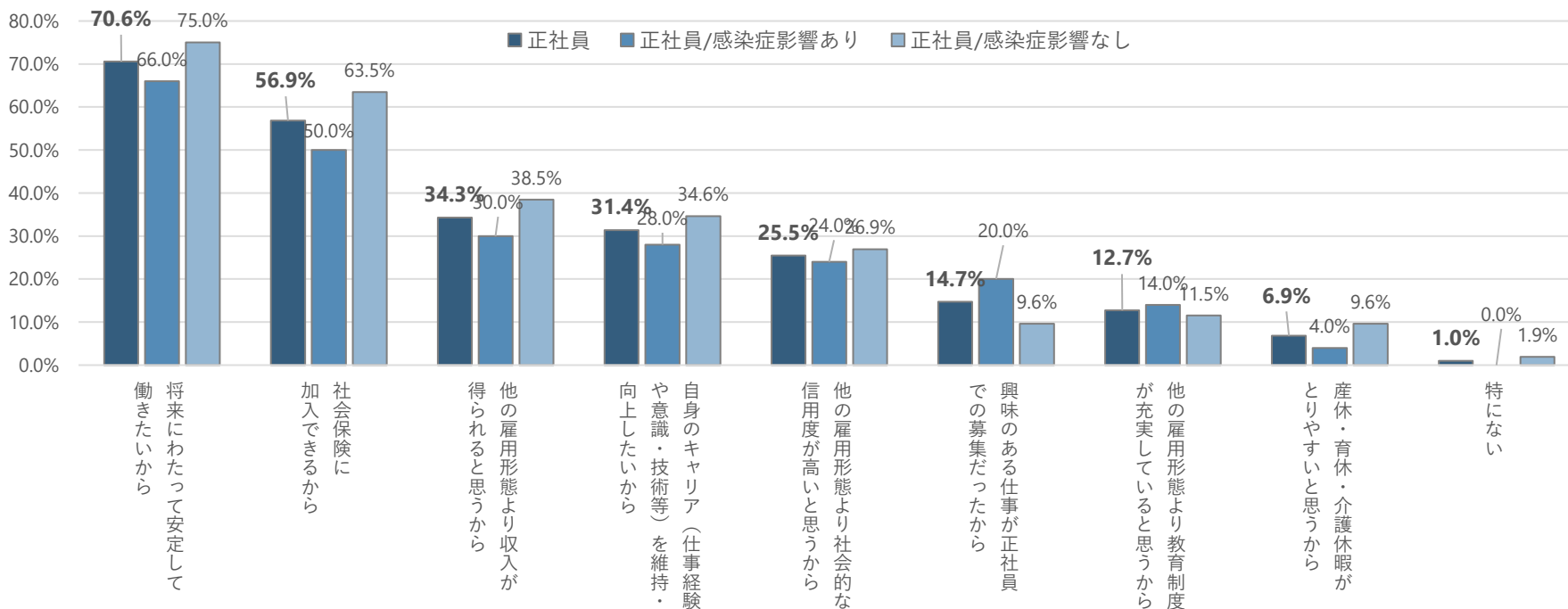


イーアイデムから求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、なぜ正社員を希望するのかを聞いた（複数回答）。最も多かったのは「将来にわたって安定して働きたいから」で70.6%、次いで「社会保険に加入できるから」が56.9%、「他の雇用形態より収入が得られると思うから」が34.3%となっている。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）との関連をみると、「感染症影響あり」の人は「興味のある仕事が正社員での募集だったから」を選んだ割合が、「感染症影響なし」の人より10.4pt高かった。業務自体への意欲で仕事探しを進めている人が多い傾向がみられる。

「感染症影響なし」の人は「感染症影響あり」の人よりも、「将来にわたって安定して働きたいから」「社会保険に加入できるから」「他の雇用形態より収入が得られると思うから」「自身のキャリアを維持・向上したから」の上位4項目で5pt以上多く選択された。正社員という雇用形態からイメージが結び付きやすい安定をより重視しているようだ。

正社員を希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



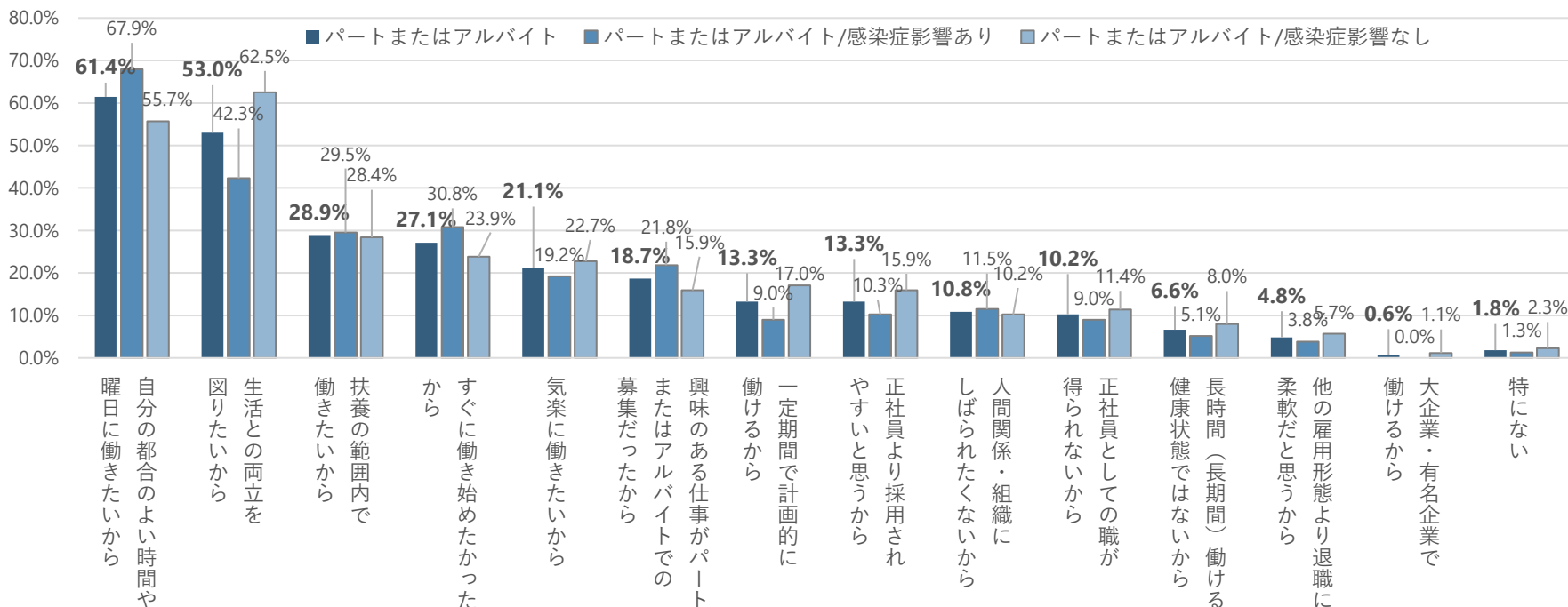
パート・アルバイトを希望する理由

イーアイデムから求人に応募した、パートまたはアルバイトを希望する人に、なぜその雇用形態を希望するのかを聞いた（複数回答）。最も多かったのは「自分の都合の良い時間や曜日に働きたいから」で61.4%、次いで「生活との両立を図りたいから」が53.0%、「扶養の範囲内で働きたいから」が28.9%となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）について、「感染症影響あり」の人は「都合の良い時間や曜日に働きたいから」が10pt以上、「すぐには働き始めたかったから」「興味のある仕事がパートまたはアルバイトでの募集だったから」が5pt以上高くなっている。取り急ぎ、働ける時間に仕事をしたいと考えている割合が多いようだ。

「感染症影響なし」の人は「感染症影響あり」の人よりも「生活との両立を図りたいから」が20pt以上高かった。従来多かった「家事の空き時間を活用」したい人のほかに、「一定期間で計画的に働けるから」を選んだ割合も高くなっていることから、少しずつ副業として仕事を探している割合が数値に表れていることも考えられる。

パートまたはアルバイトを希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



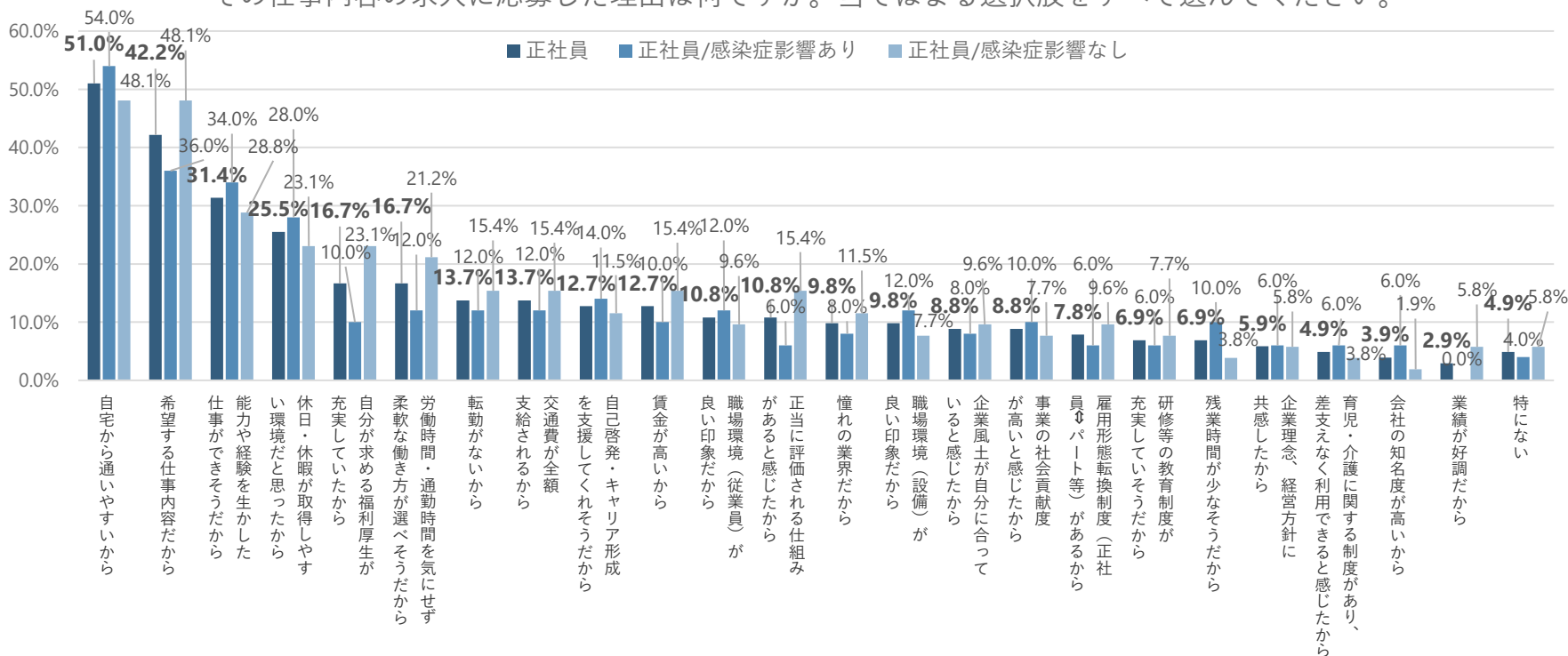
求人に応募した理由（正社員希望の場合）

イーアイデムから求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由をきいた（複数回答）。最も多かったのは「自宅から通いやすいから」の51.0%、次いで「希望する仕事内容だから」が42.2%、「能力や経験を生かした仕事ができそうだから」が31.4%となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）との関係を見ると、「感染症影響あり」の人は「感染症影響なし」の人よりも「残業が少なそうだから」が6.2pt、「自宅から通いやすいから」が5.9pt、「能力や経験を活かした仕事ができそうだから」が5.2pt高かった。仕事に関わる時間をできるだけ抑えたい人が多いようだ。

「感染症影響なし」の人では、「感染症影響あり」の人よりも「自分が求める福利厚生が充実していたから」が13.1pt、「希望する仕事内容だから」が12.1pt、「正當に評価される仕組みがあると感じたから」が9.4pt高かった。福利厚生と仕事内容を重視する傾向は、前回調査（2021年2月実施）から続いている。

その仕事内容の求人に応募した理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



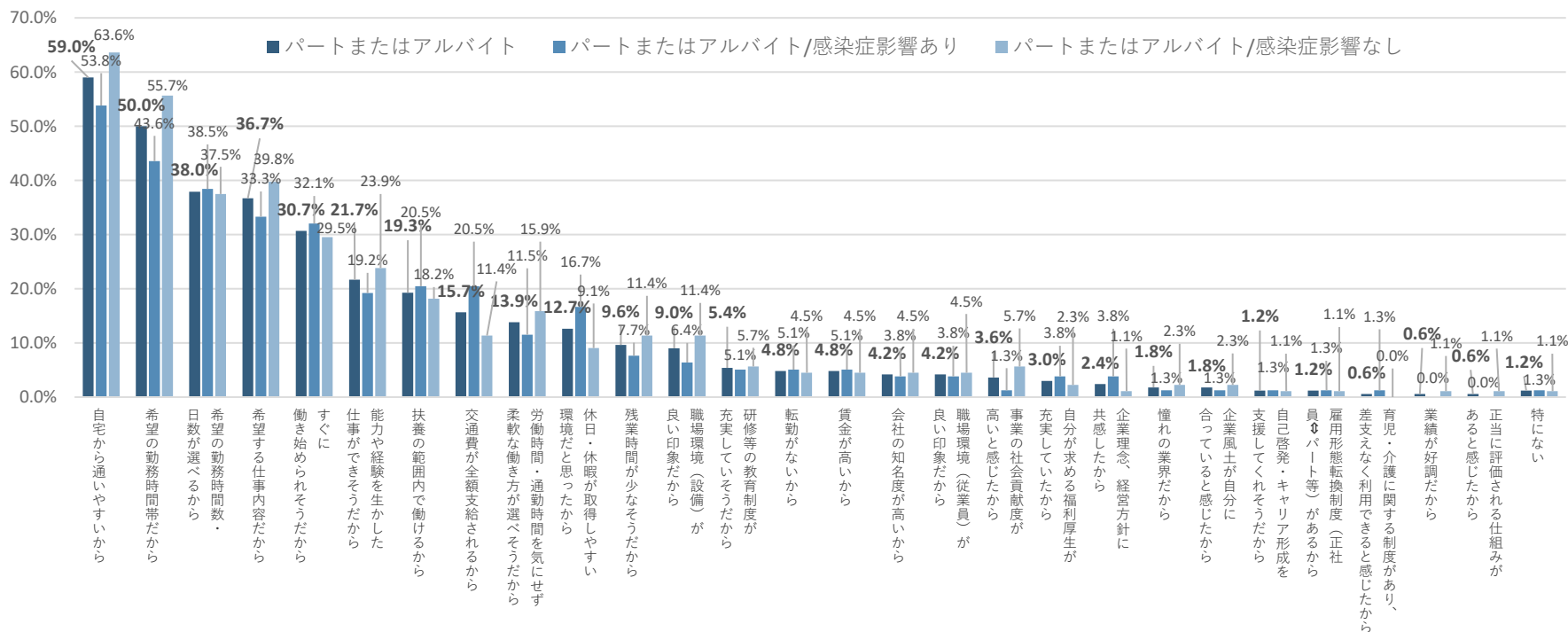
求人に応募した理由（パート・アルバイト希望の場合）

イーアイデムから求人に応募した、パートまたはアルバイト雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由をきいた（複数回答）。最も多かったのは「自宅から通いやすいから」で59.0%、次いで「希望の勤務時間帯だから」が50.0%、「希望の勤務時間数・日数が選べるから」が38.0%となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）について、「感染症影響あり」の人は「感染症影響なし」の人よりも「交通費が全額支給されるから」が9.1pt、「休日・休暇が取得しやすい環境だと思ったから」が7.6pt高かった。急遽休みが必要になった場合に対応できるかどうかを気にする人が多い傾向がある。

「感染症影響なし」の人は、「感染症影響あり」の人よりも「希望の勤務時間帯だから」が7.8pt、「自宅から通いやすいから」が6.7pt高かった。都合のつく時間帯に、通いやすさにこだわって仕事を探している人が多い傾向がみられる。

その仕事内容の求人に応募した理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



イーアイデムから求人に応募した人に、転居を伴う就職・転職について考えをきいた。（但し条件として、就職・転職先は、勤務地以外は回答者が希望する条件の仕事だと仮定して答えてもらった。）

「転居先が現在居住中の都道府県内なら応募する」は12.4%、「転職先が現在居住中の隣接県なら応募する」は6.5%、「転居先が現在の居住地から遠く離れて応募する」は5.3%で、4人に1人が希望の条件さえ合えば転居を伴う就職・転職も応募する回答となった。一方で、「転居を伴う仕事は選択しない」は75.8%となり、大半の人は勤務先に合わせて住居を移す考えはないようだ。

希望雇用形態別にみると、「正社員」では「遠く離れても応募する」が7.8%で、全体より少々多い割合となっている。非正規希望計（パートまたはアルバイト、契約社員または嘱託社員、派遣社員希望者の計）では特に県をまたいだ転居には消極的な結果となった。

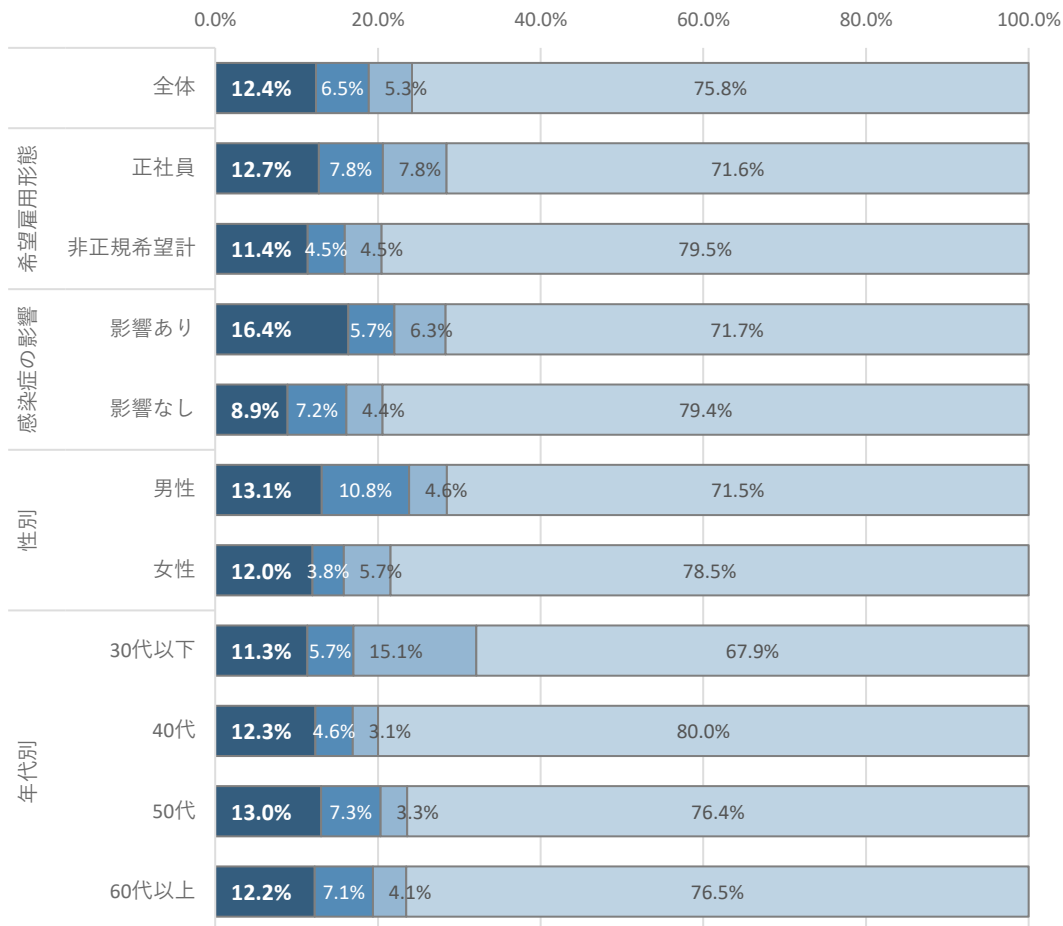
感染症の影響別にみると、「影響あり」の人では「転居先が現在居住中の都道府県内なら応募する」の割合が全体+4ptの16.4%だった。同一県内であれば感染症の状況が把握できている可能性が高いこと、仕事探しにひっ迫している場合は転居へのハードルが低くなっていることが、許容範囲を設定している要因の一つかもしれない。

性別でみると、男性に比べて女性は「転居を伴う仕事を選択しない」と回答した割合が多かった。

年代別にみると、30代以下では「転居先が現在の居住地から遠く離れても応募する」割合が15.1%だった。他の年代と比べると単身である人も多いと考えられることから、場所を絞った仕事探しをしていない人が比較的多いと推測できる。

転居を伴う就職・転職について、あなたの考えに近い選択肢はどれですか。

- 転居先が現在居住中の都道府県内なら応募する
- 転居先が現在居住中の隣接県なら応募する
- 転居先が現在の居住地から遠く離れても応募する
- 転居を伴う仕事は選択しない



イーアイデムから求人に応募した人のうち、回答時何らかの仕事についている人を対象に、勤務先から支給されている住宅に関する補助について聞いた。

住宅補助費や家賃補助など、何らかの制度がある割合は23.2%、「制度がない」は46.5%、「わからない」は30.3%となった。回答者の約半数の勤務先では、住居に関する補助制度が無いようだ。

制度がある場合の詳細は、「主に寮・社宅等の現物支給がされている」が全体の3.2%、「主に手当や補助が現金支給されている」が全体の5.8%、「制度はあるが、支給対象ではない」が全体の14.2%となり、何らかの補助を享受している割合は1割以下となった。

希望雇用形態別にみると、正社員を希望する人のうち何らかの住宅に関する補助を受けている割合は16.7%と、非正規を希望している人よりも高くなった。次に検討している就職先・転職先においても、住宅に関する補助が受けられる前提で探している可能性がある。非正規希望計（パートまたはアルバイト、契約社員または嘱託社員、派遣社員を希望する人の計）の約4割は、制度の有無が「わからない」と回答した。

勤務先から支給される、住宅補助費・家賃補助費について、現在の状況に近いものを教えてください。

■主に寮・社宅等の現物支給がされている ■主に手当や補助が現金支給されている □制度はあるが、支給対象ではない □制度がない □わからない

